質問順位 1	質 問 者 寄谷猛	<b>男</b> 議員	
件名	項目	要旨	メ モ
1. 市長の基本姿勢	1. 子どもの権利条例の制定、 子どもの権利救済機関の設置 について	1. 国のこども基本法、こども大綱を受けて、滝川市こども計画が本年2月に策定された。様々な施策の具体化が始まっているが、施策の根底にあるのは子どもの権利である。子どもにとって大切な権利が将来にわたって保障され、施策がぶれることなく、子どもたちが安心して自分らしく健やかに成長していくためには、子ども権利条約の理念を踏まえ、子どもの権利を保障し、それに関する施策を推進することを明らかにする条例の制定が本市においても必要と思うが、考えを伺う。	
		2. 子どもの権利を保障するためには、子どものSOSを受け止め、個別事案の相談・救済、子どもに関する制度の改善、子どもの権利保障の普及等にあたる子どもの権利救済機関(子どもコミッショナー)が不可欠だが法律化されていない。そのことから、条例に基づく子どもの相談・救済機関の設置が地方自治体で進んでいる。子どもの権利救済機関の設置について本市の考えを伺う。	
	2. 「外国人との共生」啓発動画の作成について	1. 本市の統計によると7月末の外国人人口は174人である。少なくない外国人が、かけがえのない地域の隣人として本市に居住している。先の参院選では、「国民健康保険制度の乱用」、「土地を買い漁っている」、「治安が悪化している」、「生活保護制度利用が多い」など外国人の差別・排斥を煽る主張がなされ、外国人の方は穏やかではなかったと思われる。それらの主張は事実と異なるものであり、国際交流に積極的に取り組む本市としては、外国人の受入と共生社会の実現を進めるにあたり、黙認すべきではない問題である。市として、滝川市LGBT啓発動画のような啓発動画を作成することについて考えを伺う。	

質問順位 1	質 問 者 寄谷猛	男議員	
件名	項目	要旨	メ モ
2. 保健福祉行政	1. エアコン購入費用の助成について	1. 今年の北海道は記録的な高温が続き、熱中症予防が広く呼びかけられた。室内にいても熱中症の危険があることから、暑さを我慢せず、扇風機・エアコンを利用することが推奨された。近年の猛暑により北海道でもエアコンは生活必需品と考えられるようになってきたが、設置を我慢している家庭もある。熱中症のリスクが高い高齢者や障がい者を抱える低所得世帯に対し、エアコンの購入を支援することについて考えを伺う。	
3. 建設行政	1. 公園のイベント利用支援・ 空き地のイベント広場として の活用について	1. 平和公園は、憩いの場としてだけではなく、イベント会場としても利用され、多くの市民が集まりやすく賑わいを見せている。街区公園としての機能とともに賑わいづくりの場でもあり、市民誰でも利用しやすい施設であることが望まれる。しかし、気軽に借りることができる利用料金ではない。市民が容易に活用できるものとすべきと思うが、考えを伺う。	
		2. 平和公園に隣接した広い更地がある。市民の憩いの場・イベント会場として活用することについて考えを伺う。	
4. 教育行政	1. 学校体育館の空調設備の設置について	1. 地球温暖化の影響から北海道でも記録的な高温になるなど、暑さによるリスクが高まるなか、文部科学省が公表した「公立学校の体育館等における空調(冷房)設備の設置状況調査」では、避難所に指定されている道内1507校のうち、学校体育館の空調設備設置率は3.8%とごく一部に限られている現状である。国の空調設備整備臨時特例交付金を活用するなどして、避難所となることが多い学校体育館への空調設備の設置推進について考えを伺う。	